

終了後に  
全体会・全分科会の  
**録画DVD**を  
申込者に  
**発送予定!!**

全国校区・小地域  
福祉活動サミットとは？

小学校区や中学校区などの  
小地域で、地域福祉活動に  
取り組む全国の実践者が  
集う交流会です

# イランカラッテ

イランカラッテ  
=アイヌ語で「こんにちは」

# どうでしょう

からで、

第14回

## 全国校区・小地域福祉活動サミット in 北海道

開催日 **2021.10.22** 金・**23** 土 **13:30-16:30** 両日とも

講演・対談

### コロナ禍における小地域福祉活動

分科会

- ① コロナ禍でのサロン活動の苦難と工夫
- ② 子供食堂から小地域福祉活動への展開と実際
- ③ 小地域福祉活動を“福祉”×“教育”から実現する！
- ④ 地域住民が主体となる小地域活動や生活支援の仕掛け！工夫！

テーマ

参加費

① 市区町村社協等の団体

サテライト会場 **10,000円**

② 個人の場合 **3,000円**

開催方法

Zoomミーティングを  
使用したオンライン形式

市町村により社協が集合形式で  
会場を設置できる場合があります

- 主催 第14回全国校区・小地域福祉活動サミットin北海道実行委員会  
共催 小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク  
後援 社会福祉法人 全国社会福祉協議会、社会福祉法人 北海道社会福祉協議会、  
社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会、  
北海道クロスパートナーズミーティング企画委員会



HPIはこちら

# タイムスケジュール

講演

10月22日(金) 13:45~14:45

## コロナ禍における小地域福祉活動

講師 山田 英孝氏 津別町社会福祉協議会会長

×

コーディネーター 櫛部 武俊氏 釧路社会的企業創造協議会代表理事

コロナ禍により地域住民の生活や活動は、大きく変化を迫られた。マスクの着用は顔のみえる関係を曇らせ、ソーシャルディスタンスは、人々の手の取りあえる関係性を失わせ、密の回避は集うことを止ませ、人間関係を孤立させた。コロナ禍は、小地域福祉活動がこれまで築いてきた地域住民や地域による支えあいやつながりを無効化するほどの影響があったといえる。確かに、既存の小地域福祉活動の取り組み方は、コロナ禍で無効化されたかもしれない。しかし、小地域福祉活動が培ってきた活動の成果(果実)は、取り組み方に工夫を加えることにより新たな仕掛けや活動が芽吹いてきた。

そこで全体会では、コロナ禍における小地域福祉活動というテーマを設定し、ふたつの点に着目していこう。ひとつは、コロナ禍により“できなかったこと”や“変化したこと”を浮き彫りにしていきたい。もうひとつは、そのことによって生まれた新たな活動や活動の工夫、仕掛けを明らかにしていきたい。これら2点をつまびらかにすることで、小地域福祉活動の新たな局面を参加者とともに導いていきたい。

第1分科会 15:00~16:30

### コロナ禍でのサロン活動の苦難と工夫

実践報告者 手倉森 洋子氏と事務局員の皆さん  
手稲区前田地区福祉のまち推進センター 事務局長

岡田 千春氏 浦山自治振興会まちづくり推進員  
浦山地区社会福祉協議会担当

コーディネーター 佐藤 寿一氏 前宝塚市社会福祉協議会  
常務理事

分科会運営担当者 大井戸 麻衣氏 札幌市社会福祉協議会

地域住民にとってサロンは出会いや仲間づくり、健康づくりの場であり、ボランティアをやるものにとっては、地域で役割をもって活動することで楽しみや生きがいを感じられる場でもあった。サロン活動は、地域住民が気軽に交流できる場を設け、そこに集うことをきっかけに、サロン以外の場でも日頃からお互いに声をかけ合い、気にかけてあえる関係を築くことを目指してきた。しかしコロナ禍により、サロン活動は休止、縮小を余儀なくされた。

第2分科会 15:00~16:30

### 子ども食堂から小地域福祉活動への展開と実際

実践報告者 辻川 恵美氏 NPO法人木と風の香り 代表理事

向 優子氏 ひみキトキトこども食堂ネットワーク代表

澤田 有紀氏 氷見市社会福祉協議会こども支援課 チーフ

コーディネーター 勝部 麗子氏 豊中市社会福祉協議会  
福祉推進室長

分科会運営担当者 櫻井 宏樹氏 苫小牧市社会福祉協議会

子ども食堂は、子どもたちや大人にとっても自宅や学校、職場以外の居場所となりつつある。なぜ、地域に子どもやそれらを取り巻く人々が集う子ども食堂のような居場所が必要とされるのであろうか。分科会では、地域住民の手による子ども食堂の展開に着目し、小地域での福祉活動の展開と実際を考えていく。同時にコロナ禍で実践が窮地に立たされ、活動の縮小を余儀なくされながらも活動を継続するために工夫したことや新たな取り組みなども織り交せて考えていきたい。

10月23日(土)

第3分科会 13:30~15:00

### 小地域福祉活動を“福祉”×“教育”から実現する！

実践報告者 荻原 唯氏 社会福祉法人ゆうゆう

須田 正子氏 よりあい＊ええげえし 事務局長/  
埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員

コーディネーター 牧野 郁子氏 鶴ヶ島市社会福祉協議会  
地域福祉担当主査

分科会運営担当者 櫻井 耕平氏 江別市社会福祉協議会

小地域福祉活動は、地域住民主体の福祉活動やネットワークづくり、組織化などを必要とする。特に地域住民の主体性や参加をどのように促すべきであろうか。そのように考えるとき、あらかじめ“福祉”×“教育”の重要性が、学校・地域・社会で浮かびあってくる。そこで本分科会では、小地域福祉活動を支える鍵となる地域住民やその担い手となるであろう人々の根底にある“福祉”を問いつつ、“地域の中での教育”を小地域福祉活動との実際の中で考えていきたい。

第4分科会 13:30~15:00

### 地域住民が主体となる小地域福祉活動や生活支援の仕掛け！工夫！

実践報告者 佐藤 智彦氏 池田町社会福祉協議会 事務局長

下徳 真吾氏 都城市社会福祉協議会

コーディネーター 高橋 良太氏 全国社会福祉協議会地域福祉  
部長

分科会運営担当者 高橋 修一氏 北海道社会福祉協議会

地域住民が主体的に生活や地域での支え合いをいかに醸成すべきか。小地域福祉活動や生活支援体制整備等は、地域住民の主体性や地域での支え合い等を醸成する取り組みを引き出す。地域住民の主体性や地域での支え合いを促す仕掛けや工夫を小地域福祉活動や生活支援体制整備等から考えていきたい。同時にそれらの取り組みの仕掛けや工夫、特色についても着目していきたい。

## Peatixでのチケット申込・参加方法



ホームページ「イベント申込方法」からお申し込みください。

HP公開後～締切:2021年10月8日(金)

参加費

- 1.市区町村社協等の団体(サテライト会場)……………10,000円
- 2.個人の場合……………3,000円

### チケット申込方法

参加ご希望の方は、チケット購入サイト「Peatix」の本イベントページから、申込みを行ってください。お振り込みが確認された後、10月19日(火)に一齐に、オンライン参加URLやパスワード等の必要情報をメールにてお送りします。Peatixの操作で不明な点がございましたら、ヘルプページをご覧ください。



Peatixヘルプ

※ お振り込み後のキャンセルに伴うご返金には対応いたしかねますので、くれぐれも慎重にお申し込みください。

※10月20日(水)時点で、メールが届いていない場合は、メールにてお問い合わせください。